

## ○シンボル事業に関する主な意見

### 1. シンボル事業の基本的な考え方

- 鉄道・盆栽・人形もそれなりの知名度は確立しているが、都内から人を呼び込めるようなもう一つコアになるものが必要ではないか。
- シンボル事業の開催にあたっては、シンプルでわかりやすく、強烈なコアとなるものが必要ではないか。
- シンボル事業の事例で挙げられた都市はすべて港を持っていて、発信という言葉より前に、名もない人間と名もない人間が交流していた。そういう土地は、DNAとして流れている強いものを持っている。そう考えると、さいたま市は何を持っているのかを探り、見つけたものがシンボル事業における底の底のコアになるものだと思う。
- さいたま市レベルの都市になったら、文化芸術を独自に育てていく位の発想が必要ではないか。他自治体がまだ取り残しているところをうまくつかんで、さいたま市独自のものをつくり、それを振興する必要がある。
- 文化芸術のシンボルになるような試みで、多くの人たちを集めて、そこに力を結集し、この目的のためならボランティアになりたい、何かを支えたいと市民が思っただけのようなものを発案していくと、非常に具体的に方向性が定まってくるのではないか。
- 映画でも、音楽祭でも、演劇祭でも何でも良いが、今、さいたま市が実施するのに一番ふさわしいものを発案して、それに向けて、できるだけ市民の文化的な気持ちが集まるような方向性を求めるのが良いのではないか。
- 人がわざわざ行きたくなるものに求められているのはリアル感で、とってつけたようなイベントをしてもなかなか持続しないのではないか。今あるものを発掘して、今風に磨きあげていくことが、一番求められていると思う。

### 2. シンボル事業の基本的な枠組み

- 資料「政令指定都市における文化芸術振興関連イベント」に掲載されている政令指定都市の文化振興イベントは3つに分類できるのではないか。①ヨコハマトリエンナーレ、神戸ビエンナーレなどのように、大規模で国際的な発信力を持ち、アートという視点からまとめあげたイベント。②新潟市の水と土の芸術祭と岡山市芸術祭のように、市民活動に対する応援を行い、郷土に根づいたものを行っているイベン

ト。③川崎市のアジアンフェスタのように、お祭性が高く、駅ビルや商店街などの商業施設とコラボレーションしたイベント。まず、さいたま市はどのグループに属するかたちでやっていきたいのか、費用、方向性、スケジュール、コンセプト、全体的なプロデュースの有無などを考えていく必要がある。

○イベントの実施に向け、4つのことを考えていく必要がある。まず、メインステージをどこにするか。そして、全体のコンセプト。芸術祭の形にするのか、それとも国際的なアートの発信にするのか、そういうコンセプトと全体のサイズを考えること。また、スポンサーにどこか大きい企業をつけるということ。さらに、アートプロデューサーの役割を担える人が必要。

### 3. シンボル事業の開催方法

○市民が簡単に参加できるような一流芸術の鑑賞機会が、これまで意識されてきた以上にニーズとして高いのではないか。

○総合的なフェスタやイベント性があるものになると集客力が上がるということは大きなヒントではないか。多面的であること、総合的であること、それによってあらゆる層を引き付けることができる。一つの芸術とか、さいたま市にちなんだものも望ましいですが、もっと総合的でイベント性があるものにしていくことが成功の秘訣ではないか。

○スペインのビルバオでは、オペラを見た後、美術館を回って、夜は、ビルバオ対バルセロナのサッカーの試合があった。相乗効果があるような着眼点を持つと、すごくエネルギーがあることができるのではないか。

○地域の自主的な事業をさいたま○○フェスティバルというシンボル事業の認定事業のように位置づけ、年間を通して行うということも一つの案ではないか。

○コアになる一流の芸術を持ってくるというのも必要だし、地に足のついた伝統的なものと2つの方向でやっていこうという視点は非常に重要である。しかし、文化芸術都市の創造ということを考えると、市民の方々がふだんやっていること、例えば発表の機会をより増やすとか、あるいは活動によってお金が回っていく仕組みをつくること、経済を活性化していくことなども必要で、単発のシンボル事業になってはいけないのではないか。

○発信力のあるイベントを実施することによって、認知度・集中度を高め、今まで継続的に積み上げてきて成功している部分と、もう一つ核となり新たに発信するもの

を持ってきて、全体をうまく融合できれば、それを柱につくっていくことができるのではないかと。

- さいたま市に人を呼ぶということを総合的に考えると、いろいろな場所に行くスタンプラリーのようなイベントが良いのではないかと。
- コンクール形式のものは、それなりにレベルの高い審査員がいて、そこに挑戦したいというモチベーションがないとなかなか継続していかないのではないかと。

#### 4. シンボル事業の内容

- さいたま市では合唱が非常に盛んであり、全国レベルの優勝校・受賞校を多く抱えている。こうした地域に根ざした合唱を活用し、優勝校の模範演奏や吹奏楽で金賞を取った学校の演奏、小中学校の合唱団などの協力を得て、大規模なイベントにしていけば、比較的コストをかけずに開催できるのではないかと。
- さいたまスーパーアリーナで音楽コンサートをやれば1万人を集めることができる。それを核にして、周辺で祭のようなイベントを秋のシーズンなどに1週間程度実施できると起爆剤になるだろう。
- 『マクベス』というオペラは、通常でも100人以上の合唱団が必要だが、これをさいたまスーパーアリーナにおいて、400人の合唱団により、蜷川演出でやるということも考えられる。
- 東北の祭を幾つか呼んで、さいたまの祭を合わせ、スーパーアリーナや周辺で、山車や神輿などが集まるイベントを開催してはどうか。

#### 5. その他

- シンボル事業を開催するにあたっては、行政と市民が同じ方向を向いて、積極的に盛り上げていくことが大事なのではないかと。
- 開催時期や時間帯などは、誰を対象にするのかで大分違ってくる。多くの市民が参加できれば、活性化するので、こうしたことも重要なポイントではないかと。
- 地域経済の活性化や産業の振興を図るには、関東、首都圏から集客できるようなシンボル事業を考えていく必要があるのではないかと。